



ジョージア(グルジア)便り その73



ジョージアのソウルフードとして真っ先に浮かぶのはヒンカリである。数カ月も口にしていないと無性にこの味が恋しくなるのだ。東京中を探したが結局ヒンカリは見つからなかった。この小籠包のような食べ物ジョージアの老若男女を虜にし続けてきた。僕の友人の6歳の娘は、ご褒美にヒンカリを食べに行くためにフィギユアスケートを頑張っているらしい。

江戸前そばは音を立てて食べるのが暗黙の了解であるように、ヒンカリにも食べ方のルールがある。観光客がフォークなんかを刺してかぶりつこうものなら白い目で見られるだろう。ローカルは手にヒンカリを取り、歯で穴を開けて中の肉汁をすすつてから食べるのである。見た目は少し大きめの点心のようであるが、蒸して調理する点心と違ってヒンカリはゆでるのが基本である。ジョージア人にヒンカリはおそらく中国由来の食べ物ではないかと聞くと真っ向から否定する答えが返ってきた。ヒンカリはもともとジョージアの山岳地帯の食べ物であると自信たっぷりに言うものだから、僕もそれ以上は突っ込めなかった。

ジョージアはシルクロードの中継地、コーカサス山脈のふもと、黒海の豊かな港を擁して地政学的にも重要な場所を占めてきたため、度重なる他国から

の侵略を受けてきた。13世紀にはモンゴル帝国の支配下にあったようなので、ヒンカリもモンゴル人の置き土産なのではないだろうか？モンゴルが支配していた中央アジアにはヒンカリに似た食べ物がいまだに点在しているのもそれを裏付けているだろう。

1000年前の日本人はおそらく僕らとあまり変わらぬ見た目をしていただろう。渡来人が列島に渡ってきて以来、民族的な変化は日本においてほとんど見受けられない。しかし1000年前のジョージア人はどうだろうか？今では黒髪で浅黒く高い鼻が特徴的なジョージア人だがもともとは金髪碧眼の民族であったという。度重なる民族の流入と被支配によって現在のジョージア人を形成してきたであろうし、文化においてもヒンカリしかり、イスラム、ロシアの影響など度重なる上書き保存がなされてきた。そこで現在のジョージア人をジョージア人たらしめるものは何だろうか？僕はDNA的な生物学的根拠ではなくグルジア語、キリスト教、愛国心の3つがジョージア人の根幹を支えていると思う。古代史において比較的早くに形成されたグルジア語を操り、カルケドン派キリスト教を信じ、愛国教育を受けたものであれば金髪であろうが黒髪であろうジョージア人である。「シヴィリ」や「ゼ」

といった語尾のジョージア独特の名字を持つ者でも、ロシア語を母語として自分をロシア人と位置付けるジョージア国籍者もいるので、やはり住んでいる場所、生物学的特徴ではジョージア人は定義できないのである。

だが宗教的な帰属感というものが薄れ、グローバル化されてきた世界の中ではさらにジョージア人を定義することは難しくなってきた。むしろその必要もなくなっているのかもしれない。

もしヒンカリを手づかみでとり、中のスープをすすつてテーパーを囲む仲間や家族を大切に思う心があれば、それだけでジョージア人である。

国民的ヒンカリとジョージア人

文 高野 陽年

text by Yonen Takano

Profile

2011年にロシアの名門ワガノワバレエアカデミーを卒業し、世界的振付家ナチョ・ドゥアトの指名を受け外国人初の正団員としてロシア国立ミハイロフスキー劇場に入団。主にドゥアト作品で活躍した後、2014年6月より世界的に絶大な人気を誇るバレリーナ、ニーナ・アナニアシヴィリに引き抜かれグルジア国立トビリシ・オペラ・バレエ劇場に移籍。現在はその団の主要なダンサーとして国内外の公演で劇場を牽引している。立教大学中退。

